

川崎 翔子 ピアノリサイタル ～幻想のうた～

ごあいさつ

(公財)真庭エスパス文化振興財団では、平成27年から真庭市と社会福祉法人旭川荘、元東京藝術大学特任教授の瀧井敬子さんと協働して、福祉に理解のある国際的な音楽家を顕彰・育成する「グラチア音楽賞」の受賞者のCD制作に取り組んでいます。

初年度の平成27年には、旭川荘が所蔵する、天満屋葦川会館のこけら落としコンサートでレオニード・クロイツァーが演奏した国産初期のフルコンサート・グランド・ピアノを使い、エスパスホールで、いずれもピアニストの川崎翔子さんと佐野隆哉さんが演奏した2枚組CD「クロイツァーの記憶」が制作され、2年目の平成28年は、川崎翔子さんのソロCD、「VISIONS I -Dream (夢幻)-」とフルーティストの竹山愛さんとピアニストの佐野隆哉さんによる「GATE 扉の向こうの音世界」が制作されました。

これは、演奏者の技術や音楽性と同時に、録音場所であるエスパスホールの音響の良さも同時に高く評価され、「クロイツァーの記憶」と「VISIONS I Dream 夢幻」は『レコード芸術』で準特選盤に、「GATE 扉の向こうの音世界」は特選盤に選ばれました。

そして3年目の昨年は、佐野隆哉さんのソロCDを録音し、4年目の今年は、12月3日と4日の2日間、日本とドイツを拠点に国際的に活躍しているピアニスト、川崎翔子さんのソロCD(タイトル未定)を制作するための録音を行います。

川崎翔子ピアノリサイタル～幻想のうた～は、CDに収録する曲目の中から厳選して、まず、真庭市の皆さんに聴いていただくためのリサイタルです。

『精密かつ気品に溢れた演奏』-Süddeutsche Zeitung (南ドイツ新聞)、『並外れた日本人ピアニスト川崎翔子は聴衆を熱狂の嵐へと誘った』-DEWEZETともう1つの拠点ドイツで大絶賛された川崎翔子さんの演奏をぜひ堪能ください。

Pianist

川崎 翔子 Shoko Kawasaki

東京都出身。3歳半よりピアノを始める。

ボリーノ国際コンクール、マッサローザ国際コンクール(両イタリア)、Musikpreis des Kulturkreis Gasteig(ドイツ)、安川加壽子記念コンクールをはじめとする国内外の数々のコンクールにおいて優勝、入賞。日本音楽コンクール入賞。これまでに日本はもとより、ドイツ、オーストリア、スイス、イタリア、スペイン、ベルギー、スロバキア、ポーランド、アメリカ、キューバ、韓国でのリサイタルやオーケストラとの共演、音楽祭への出演、レクチャーなど各地で好評を得る。イタリアでのリサイタルの様子はテレビで放映され、ドイツはARDバイエルン・ラジオ放送にも出演。ドイツ国内でのリサイタルはSüddeutsche Zeitung、Muenchner Merkur、WAZをはじめ、多くの新聞において高い評価を得ている。

2008年より(株)ヤマハ企画による「名曲とお話でつづるピアノサロンコンサート」を全国各地で行う。

2013年、新進音楽家を顕彰するために設けられた「グラチア音楽賞」の国内第一号受賞。2016年、Studio N.A.TよりCD「クロイツァーの記憶」、翌年2017年には初のソロアルバム「VISIONS I -Dream (夢幻)-」をリリース。共に「レコード芸術」にて準特選盤に選ばれ多くの新聞、音楽雑誌等で好評を得る。2013年より日本各地の小・中・高等学校でのアウトリーチだけでなく、養護施設や孤児院などでの演奏活動も積極的に行なっている。

都立上野高等学校普通科を経て東京藝術大学音楽学部器楽科を卒業、同大学大学院修士課程を首席で修了、クロイツァー賞受賞。2014年学位論文「G.リグティクピアノのための練習曲>全18曲における演奏法」により博士号を取得し、同大学大学院博士課程修了。博士課程在籍中より、ミュンヘン国立音楽演劇大学大学院交換留学生に選抜され、2016年に現代音楽科、及びマイスター課程国家演奏家資格ソリスト課程を修了。在学中、ルームミュージックファンデーション、本庄国際奨学財団、Oscar und Vera Ritter-Stiftung、Deutschland Stipendiumの奨学金を得る。

これまでに深野理恵、御木本澄子、多美智子、多紗於里、G.タッキーノ、青柳晋、M.シェーファー各氏に師事。また、J.ルヴィエ、E.ネックレベルク、A.ボナツァ、R.レモリ、M.ヴォスクレセンスキー、V.トロップ各氏、多くの音楽家から薫陶を受けている。

現在、ドイツ在住。ミュンヘン国立音楽演劇大学、ルーヴル・マキシミアン国立大学(バイエルン州演劇アカデミー併設)にてピアノ科非常勤講師。ドイツに本拠地を置くG.ヘンレ出版社、G. Henle Verlagの楽譜アプリ「ヘンレライブラリー」公式プロモーション・マネージャーに任命される。日本とドイツを拠点に国際的に活動を展開している。



Producer

瀧井敬子 Keiko Takii

昭和21年、札幌生まれ。東京藝術大学楽理科卒業、同大学院修了。

明治の文豪の洋楽受容に関する音楽学研究のスペシャリストである。ドイツ・ロマン派も専門分野。

2017年10月15日に東京文化会館で開催された、夏目漱石生誕150年記念、漱石が上野で聴いた「ハイカラの音楽会」総監督。

近年は、「藝術×福祉」の活動にも力を入れ、西日本最大の社会福祉法人「旭川荘」を拠点にして「グラチア・アート・プロジェクト」を展開している。2013年度には福祉に理解のある国際的な音楽家を顕彰・育成する「グラチア音楽賞」を創設。2015年にはバリアフリーオペラ「アマールと夜の訪問者たち」を総監督として公演。2016年度にはCD「クロイツァーの記憶」(旭川荘所蔵の国産初期のフルコンサート・グランド・ピアノを使用)、2017年度には「GATE 扉の向こうの音世界」(竹山愛)、「VISIONS I -Dream (夢幻)-」(川崎翔子)をエスパスホールで録音して制作し、レコード芸術誌で「GATE」は特選、「クロイツァーの記憶」と「VISIONS I」はそれぞれ準特選に剪定された。「グラチア音楽賞」受賞者の録音は現在も継続中。

真庭市の風土や文化の資質、エスパスホールの音響を高く評価していただいたことから、真庭市の文化や産業の活性化・発展にも力を尽くされていて、夏目漱石生誕150年記念企画「漱石が聴いたハイカラの音楽会」へのエスパス混声合唱団の東京混声合唱団との共演、ホワイエでの真庭市の特産物の販売等も実現。

著書に『漱石が聴いたベートーヴェン』(中公新書)、共著に『オペラ学の地平』(彩流社)、『幸田延の滞欧日記』(東京藝大出版会)、校訂編著に『森鷗外訳オペラ「オルフェウス」』『ゼッキンゲンのトランペット吹き』(紀伊國屋書店)などがある。訳書は『謎のヴァイオリン』(H. ミュラー著新潮社)、『大作曲家の和声』、『大作曲家の対位法』(D. デーラ・モッテ著いずれもシンフォニア)ほか8冊以上。評論『ヴァイオリン協奏曲』作品64をめぐって(フェーリクス・メンデルスゾーン生誕200年特別企画、音楽之友社)とはじめ多数。論文、新聞・雑誌の寄稿多数。

森鷗外訳オペラ「オルフェウス」(初演:東京藝大主催・DVD発売中、再演:文京区主催、鷗外生誕150年記念事業・文化祭参加公演)、《ゼッキンゲンのトランペット吹き》(初演:山形県長井市主催・文化庁助成事業)、坪内逍遙原作《新曲浦島》(初演:東京藝大主催・DVD発売中)の舞台公演制作で成功をおさめた。

芸術フェスティバル「藝大アーツイン東京丸の内」(東京藝大・三菱地所主催)の総合プロデューサーを立ち上げから2013年まで、7年間つとめた。東京藝術大学特任教授、客員教授を歴任して2014年定年退官。2010年まで、国立西洋美術館客員研究員も兼任。



ジュニアシートのご案内

(公財)真庭エスパス文化振興財団では、青少年の芸術文化の普及と鑑賞者の育成を目的に、指定する事業で真庭市内の小中学生を対象にしたジュニアシートを設けています。

ジュニアシートを設ける事業では、真庭市内の小中学生は無料もしくは高校生以下料金の半額程度でコンサート等をご覧いただけます。ジュニアシートには財団が指定する事業ごとに定める定員と座席指定があります。(保護者と一緒に鑑賞される場合は、保護者の隣の席をお使いいただくこともできます。)

「川崎翔子ピアノリサイタル ～幻想のうた～」では、お申し込み順に50人までご利用いただけます。料金は500円で、事前にエスパスセンターでチケットをご購入いただくことが必要です。

ジュニアシートを希望する真庭市内の小中学生は、11月20日(火)までにエスパスセンターにお申し込みください。